



フードバンク関西ニュース

2012年3月31日 第23号

フードバンク関西は食品関連企業から余剰食品を受け取り、支援を必要とする人達を支える営利団体にそれらを無償提供する活動をしています。

2012年3月31日発行
認定NPO法人フードバンク関西
事務所 芦屋市呉川町1-15
TEL/FAX 0797-34-8330
e-mail foodbank05@yahoo.co.jp
URL <http://foodbankkansai.org/>

被災者支援、いまフードバンクにできること

東日本大震災から1年が過ぎました。被災地では避難所生活から仮設住宅への移動があり、私達の支援のかたちも、どうするのが本当の支援になるのか、考える必要が出てきました。昨年の9月までは、食べ物、生活用品の支援要請があり、それに応えるべく頑張りましたが、その後は就労支援や地元産業の復興を支援する取り組みが重要と考えられ、食品の提供は地元の商業活動を邪魔するのではないかと危惧もあって、フードバンク関西の効果的な方法を模索し始めました。現在は、関西地域から被災地に入るボランティアグループが現地で活動するのに必要な食品の提供、例えば、子供キャンプをするグループにはそれに使う食品、仮設のご老人の訪問をされるグループには戸別訪問する際にお渡しする神戸土産のお菓子等々の提供を機会あるごとに行っています。



そんな中、ハイツ日本株式会社からアップル、グレープフルーツ、パインアップルのオリジナルジュース合計3600ケース(46.8トン)の提供の申し込みがあり、これは被災地の皆様に活用していただくなくてはということで、昨年4月に立ち上げられた東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)を通じて、宮城県亘理郡、石巻市、相馬市、南相馬市、陸前高田市、東松島市で支援活動をしているNPOその他11団体にお届けすることができました。ジュースの配送は、ハイツ日本がすべて引き受けて下さいました。この活動で現地支援団体と情報交換する中で、福島では水道水も取水地域の放射能汚染の懸念があり、子供達や妊婦さん達の内部被曝を防ぐため、とまかく安全な飲み物を確保したいという強い思いを知り、また現地で活動する支援



団体が今でも真剣に安全な飲料水の確保に大変な努力を払っておられることを知りました。阪神大震災を経験した私達ですが、あの時は水道が通じた時、良かった、これでもう大丈夫と安心できました。今回は、そうはいかないのですね。福島は六重苦(地震、津波、原発事故、風評被害、風化、便乗商法による消費被害)を抱えてしまったとおっしゃるその重さを痛感しました。これからも、フードバンク関西にできることを模索しながら、被災者の皆様に心を寄せ、お力になれるよう、努力したいと思います。(浅葉)

仙台市でフードバンクネットワーク会議開催

フードバンク東北 AGAIN 主催、農水省の補助金で、フードバンクネットワーク会議が3月3日、仙台市市民会館にて開催され、翌4日、フードバンク研修会「東日本大震災から1年 フードバンクの可能性と課題」が仙台市市民活動サポートセンターにて開催されました。

ネットワーク会議にはフードバンクとして活動する団体として社会的に認められるための一定の基準「フードバンクガイドライン2010」に調印した11団体(フードバンクだいち青森、ふうどばんく東北AGAIN、セカンドハーベストジャパン、フードバンク山梨、フードバンクとやま、フードバンクいしかわ、セカンドハーベスト名古屋、フードバンク関西、フードバンク広島、フードバンク九州、セカンドハーベスト沖縄)の殆どが参加しました。現在すでにフードバンク団体が20以上を数えるに至っています。全国的に見て、あらたに設立の動きも見られます。実績を積んだフードバンク団体が、活動趣旨を明確にし、品質保持のためのガイドラインを持つネットワークの構築を図ることは、企業や行政との協働に資するためにも必要なことだと考えられます。今回、各団体の帳票類の共有、ガイドライン実施基準、食品管理規定、情報管理規定、事故対応規

定について話し合うことを確認し、6月をめどに規定の検討が集約される予定となっています。全国に散らばる団体が、効率よく意見を交換できるように、オンラインミーティングが計画されることになりました。

フードバンク研修会では、セカンドハーベスト被災地支援活動報告（セカンドハーベストジャパン）、東日本大震災におけるフードバンク活動調査結果概要・活動の俯瞰と問題提起（三菱総研）、東日本大震災支援活動報告・米国セントメアリーズフードバンク視察報告（フードバンク山梨）の事例発表がなされました。事例発表後は、「3.11 でフードバンクとして行った支援」、「その支援をする中で苦労したことや残された課題」、「自分たちの地域で災害が発生したときにできること」について皆で考えるワークショップを行い、各グループから発表しました。その後、フードバンクの情報交換、質疑応答の時間が持たれました。ネットワーク加盟団体が持つ個性が際立ったように思います。しかし、行政との関係で悩む姿は何処も同じだと思いました。この研修会には、千葉県労働者福祉協議会やワーカーズコープちば（企業組合労協船橋事業団）の参加があり、労働者中央福祉協議会の活動指針に全国でのフードバンク事業があることを知りました。フードバンク活動は、熱く注視されているように思います。フードバンク関西にとっても、様々な、有意義な研修会であったと思います。（山田）

ラッフルキルトのご報告

昨年11月から12月初めにかけて、「ラッフルキルト」が行われました。これは前米国大阪総領事夫人のリンダ・ナカムラさんが、昨春からお友達と一緒にキルトタペストリーを3点製作して下さり、これらを特別賞にしたフードバンク関西支援のくじ付き寄附チケット（ラッフル）を、ラッフルキルト実行委員会の皆様が6枚1冊千円で販売し、その全売上額を当法人に寄附して下さるといふ企画です。

2009年に第1回目が開催され、今回で3回目になります。本年度のラッフルキルトは、3点の手作りキルトの他に、ヒルトンプラザ大阪、ウエスティン都ホテル京都の宿泊券、ANAクラウンプラザホテル神戸のディナー券、神戸クラブのランチ券、スイスホテル南海大阪のアフタヌーンティ券、USJの一日無料パス、淡水天然真珠のネックレス3点、高級ワイン19本、浮世絵木版画が、協賛企業そして個人の皆様から賞品用に寄贈され、それに加えてフードバンク関西にお菓子類その他をいつもご寄贈下さる和晃、中島大祥堂、ハインツ日本、ネスレ日本、トーラク各社から、このイベントのための素敵なギフトセット、ジュース類もたくさんご寄贈いただき、豪華な賞品が満載のラッフルとなりました。

ご協賛いただいた賞品の総数は184点でした。今回のラッフル発売数は395冊2370枚でしたので、チケット1枚当たりの賞品獲得確率は約8%、1冊では約47%でした。これはチケット約2.2冊で何かの賞品を得ていただける高確率です。抽選会は12月6日、神戸北野にある神戸クラブで開催された、神戸ウィメンズクラブ・クリスマス昼食会の席をお借りして行われ、会場では3点のキルト作品と他の賞品をきれいに飾ってお披露目しました。クリスマスランチの後、抽選ボックスから会場の皆様に当たりくじを引いていただきました。最後のくじ引きで、特賞のキルト3点のうち一番大きな作品が会場に来ておられた方に当たり、興奮の中、この抽選会を終えることが出来ました。当選番号は直ちに当法人のホームページに発表し、賞品は、その後の1週間のうちに全部当選者にお届けすることが出来ました。ちょうどクリスマスシーズン、たくさんのプレゼントを、ラッフルを買って下さった方々にお贈りすることが出来て、お手伝いをしたフードバンク関西のスタッフも嬉しい思いをしました。



皆様のご協力とご支援に心より感謝申し上げます。特にラッフル実行委員会の中心になって大活躍して下さいましたターニャさん、キルト製作をして下さったリンダさん、チャンミーさん、エヴェリンさん、スザンヌさん、セレステさん、ユミさん、チケットの販売に積極的に活躍して下さいました皆様、くじ引きの会場をご提供下さった神戸ウィメンズクラブの皆様、本当にありがとうございました。

おかげさまで、フードバンク関西は、ラッフルキルト実行委員会から39万5千円の寄附をいただくことが出来ました。それらは、私達の運営費として、大切に有効に活用させていただいております。今年もまたクリスマスの頃、第4回ラッフルキルトを開催します。どうぞお楽しみに！！（浅葉）



きずなシンポ「地域コミュニティとお寺の未来」に参加

浄土宗（京都・総本山知恩院）が5年間続けた「共生（ともいき）・地域文化大賞」を総括する「きずなシンポ 地域コミュニティとお寺の未来」（浄土宗主催、朝日新聞社共催）が3月11日、京都府の佛教大学で開かれました。地域の課題に取り組むNPOの表彰や、お寺とNPOとの協働による事業への助成が行われており、フードバンク関西は、平成21年、第3回の共生地域文化大賞に応募し、選考の結果、大賞は逃しましたが、「共生優秀賞」を受賞しています。フードバンク関西が、この賞を戴いたことで、フードバンクという地域貢献手段について社会的に光が当てられたと思います。この受賞をきっかけに、滋賀県のお寺から、定期的にお米の提供を受けられるようになったのですが、このたび、このきずなシンポに参加して、パネル討議参加者で‘ひとさじの会*’事務局長吉水氏との交流をもったことで、新しい協働が生まれそうです。まさに、絆の力で。これからのフードバンク関西の活動が、地域の絆として機能するためにも、余剰食品提供企業者や、公的組織とのクリエイティブな関係を築いていきたいものです。

*食べるのに困っている人へほんの一匙の重湯（おもゆ）を差し上げるような、本当にわずかな支援さえ満足にできないかもしれないけれど、それでもその人に寄り添いたいと思う浄土宗の僧侶たちがつくった団体。



2012年2月29日朝日新聞朝刊

(山田)

大規模量販店オープン！！ 「デリバリーボランティアの半日」



フードバンク関西の昨年度の食品取扱量は震災支援もあって前年と比べ40%も増加しました。今年2月末には、フードバンク関西設立以来8年間ずっとフードバンク活動にご支援いただいています大規模量販店が神戸市郊外に新店をオープンし、新店でも食品を提供していただくようになりました。毎週火曜日から金曜日までの4日間、毎日2名のボランティアが新店の余剰食品を引き取り、その足で新店周辺地域を中心に新しく関わったものを含め生活弱者の自立を支援する27施設に食品を届ける、いわゆるデリバリー活動を行っています。このように食品量販店から直に提供されるパン、野菜、果実は利用者に大いに歓迎されています。今回、デリバリーボランティアの半日を追ってみました。

午前9時30分、マイカーのミニバンに乗ったボランティアが事務所兼倉庫に到着しました。食品メーカーや商社等から定期的に提供され、事務

所に保管されている食品の中から、前もって事務所のスタッフが提供先施設のニーズに合わせて丹念に選んだ米、飲料品、冷凍食品、缶詰、菓子などの食品を車に積み込み、新量販店を目指して出発しました。11時前、新量販店の商品入庫前に到着しました。もう一人のボランティアが既に待っていました。事務所から積み込んできた食品の一部を彼の車に移しながら、倉庫のシャッターが開かれるのを待ちました。新店のため運び出される食品の種類や量の予測が難しく、ワクワクした気持ちになります。11時30分、シャッターが開かれ、パンやドーナツなどの菓子類、バナナ、オレンジ、リンゴ、イチゴ、レモン、ライム、トマト、アボカドなどがかごに入れられて運び出され、最後にはパレットに山積みされた大量のパンが運ばれてきました。どれも見るからに美味しそうなものばかりです。ボランティアは、これらの中から施設のニーズに合ったものを臨機応変に選び、手早く仕分けをします。例えば、児童施設ではおやつとなるお菓子やジュース、母子施設では日常食品となる米、老人施設では柔らかい食べ物を詰め合わせます。また、果物や野菜などには少し傷んだものも含まれていることもあり、施設の人に気持ち良く利用して頂くために傷んだ箇所を丹念に取り省く努力も怠りません。量販店から提供されたものと事務所から持ってきたものを組み合わせると、バランスのよいものにな



りました。パレット上のパンはボランティアの車に積み込むにはあまりにも多すぎます。廃棄されることを思うと‘もったいない’のですが、事務所へ持ち帰ったとしても、賞味期限が短いため提供先を探すのも難しく、保存するための冷凍庫のスペースもなさそうです。そこで、事務所に連絡を入れたところ、持ち帰り OK の確認が得られ、できる限り多くのパンを車に積み込みましたが、半分以上のパンが倉庫に残りました。

12時には食品の積み込みを終え、担当する施設へ出発しました。新しい訪問先のために不案内な曲がりくねった狭い坂道を対向車に注意しながら、今回の一つ目の施設に向いました。自動車を利用するボランティア活動において、当然のことながら安全運転が第一です。ボランティア活動保険というものがありますが、自動車事故の場合、ボランティア本人のケガのみが対象で、対人・対物事故は補償されないのが、個人で任意保険に入っていることが必須です。急な坂道をのぼったところに終戦直後に創設された歴史のある児童養護施設の建物がありました。スタッフの若い女性が笑顔で食品を引き取りに来ました。色々な種類のパンや菓子の中から個数を数えながら、児童の喜びそうなものを慎重に選んでいました。施設の要望はアンケートなどにより情報を得ているとはいうものの、ニーズに合った食品を届けるためには、ボランティアと施設のスタッフとのコミュニケーションはとても大切です。



次に向う施設はマンションの上層階に事務所のある母子生活支援施設です。車を道路わきに駐車し、先に小分けした食品をマンションの上層階の事務所へ運びました。一人ではとても持ちきれない量です。スタッフの皆さんが食品の到着を待ち兼ねていたかのようにドアから顔をだし、食品を受け取られました。これらの食品はさらに小分けされ、近所に分散して居住されている、支援を必要とする母子の方々に配布されます。DV(ドメスティック・バイオレンス)被害者のシェルターとしても利用されており、得られた情報については秘密厳守であり、入居者の気持ちを配慮した言動を心がけねばなりません。

2ヶ所の施設に食品を届けると、もう午後1時を回っていました。受取った人々の笑顔を思い出しながら帰途につきました。2時前に事務所に到着し、冷凍庫のスペースを見つけ、積み込んできた大量のパンを何とか詰め込むことができました。デリバリー記録を書き、今日のボランティア活動を終わりました。何と言ってもボランティア活動の原動力は、楽しいことと色々な交流があることだと思います。

このように食品を提供していただける企業が増えることは、フードバンク活動が世の中で少し認知されるようになってきたのではと感じられて嬉しいことですが、活動を進めるためには、食品提供企業、食品の受け取り団体、ボランティアの三者が必要であり、これら三者が程よくバランスを保つように努力しています。また、デリバリーの増加に伴い、ガソリン代や高速料金等の多額の経費が発生し、法人の予算を圧迫しています。フードバンク関西は一般市民の賛助会費と寄付を財源として運営しており、不足部分は助成金等で補っていますが、助成金は申請しても受けられるかどうかは分からないため、常に運営費に不安を抱えています。経費を節減するため、車の走行距離を配慮するようにボランティアのシフトスケジュールを工夫し、さらに、高速道路を極力利用しないようにしています。また、このような取扱量の増加は事務所に保管する食品が増え、保管場所に四苦八苦しています。さらに、事務所に往来する自動車の数も増え、事務所付近の住民の皆様にもご協力を得ています。食品取扱量の増加に伴い様々な課題も明らかになってきましたが、「食べ物命の糧、大切にしたい」という思いを大切に、フードバンク活動を拡大継続していけるように努力したいと思います。(井上)

編集後記

東日本大震災発生から一年が経過しました。一日も早い復興・再生をお祈り致します。原発事故による食資源への多大なるダメージを考えるとやりきれない気持ちになりますが、こんな時にこそ“食資源を大切に”をモットーとするフードバンク活動が必要です。フードバンク関西の活動が長期的に継続できますよう、フードバンク活動をご理解下さる個人および団体の方々、賛助会員登録あるいは寄付によるご支援をお願い申し上げます。また、今回紹介しましたデリバリーボランティアをやって見ようと思われる方々、下記までご連絡下さい。お待ちしております。

余った食べ物を預かって、必要なところに届けます

特定非営利活動法人フードバンク関西

事務所 〒659-0051 芦屋市呉川町1-15 TEL/FAX 0797-34-8330

e-mail foodbank@yahoo.co.jp URL <http://foodbankkansai.org/>

寄付のご送金方法 郵便振替口座 00940-4-221867 口座名義 特定非営利活動法人フードバンク関西